

公益財団法人 日本ユニセフ協会

年次報告2023

2023年1月1日～12月31日



for every child

ユニセフは、すべての子どものために

ユニセフ（国連児童基金）は、世界の子どもたちの命と権利を守るために活動する国連機関です。1946年、第二次世界大戦後の疲弊した社会の中で、困難な状況にある子どもたちを支えることを使命に誕生しました。国籍も、民族も、宗教も、関係なく、いま支援を必要としている子どものもとへ。その原則は、現在も変わりません。ユニセフは今日も、世界中で、すべての子どもの命と権利に向き合っています。

「ユニセフ協会」について

「ユニセフ協会」は、現在33の先進国・地域に置かれています。それぞれがユニセフ本部と共通の「承認協定」と「協力協定」を締結し、その国の国内法に基づいて活動する民間組織です。ユニセフ本部と協議・合意した事業計画に基づき、ユニセフ本部や現地事務所と連携しながら、各国内の「ユニセフの顔」として、様々な活動に取り組んでいます。



© UNICEF/UNIS00241/Efearth

ユニセフのグローバルネットワーク

ユニセフの活動は、世界のおよそ190の国と地域におよびます。開発途上国の支援現場では、保健、栄養、水と衛生、教育、保護、緊急・人道支援などの支援プログラムを、先進国・地域のユニセフ協会は、ユニセフ支援の公式窓口として活動の広報や募金活動を行うと同時に、政府や自治体、企業や市民社会と協働して子どもの権利に関する課題解決のためのアドボカシー活動や教育活動に取り組んでいます。こうしたグローバルネットワークによって、すべての子どもの権利と健やかな成長を支えています。

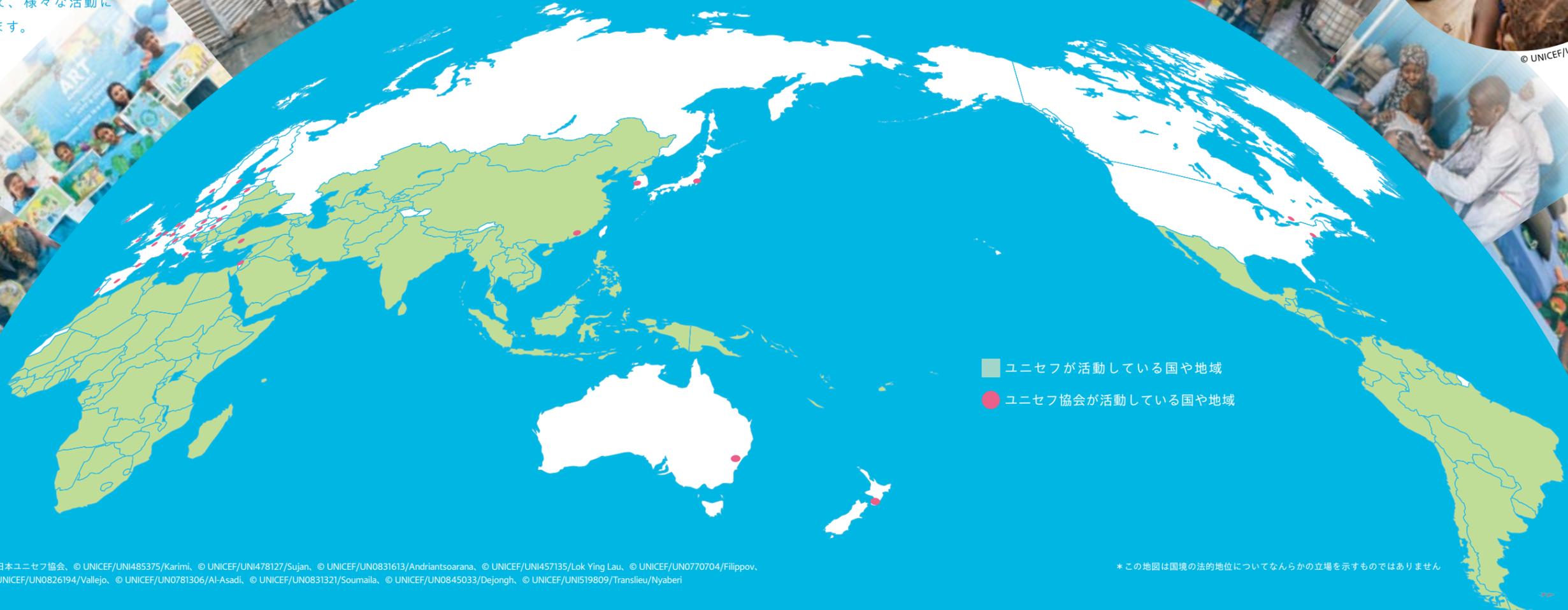
活動を支えるパートナーシップ

世界で展開されているユニセフの活動は、すべて各国政府からの任意の拠出と、世界33のユニセフ協会や各国事務所に寄せられる個人・企業・団体などからの民間募金で支えられています。民間からの協力は、資金面に限らず、革新的な技術支援（イノベーション）や各国内のアドボカシー活動、教育活動においても大きな貢献をしています。



© UNICEF/UN430918/Mirindi Johnson

ユニセフの活動地域



- ユニセフが活動している国や地域
- ユニセフ協会が活動している国や地域



通常拠出
p.8-9



緊急拠出
p.10



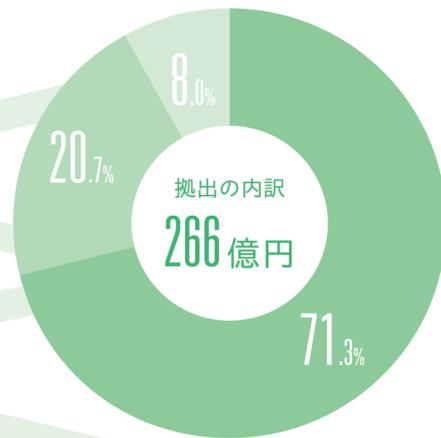
指定拠出
p.11

みなさまが支えた ユニセフの活動

2023年度に日本ユニセフ協会が
みなさまからお預かりしたユニセフ募金の総額は、

306億 7,589万円。

その86.7% (266億円) はユニセフ本部を通じて世界の支援プログラムに、13.3% は日本国内でユニセフや子どもの問題への理解や支援を広げる活動、日本の子どもたちの権利課題の解決に向けたアドボカシー活動などに充てられました。



86.7%
世界
の子どもたちへ

世界のユニセフの活動を支える

13.3%
国内
の活動へ

日本国内でのユニセフ活動を支える

日本から世界へ
通常拠出 71.3% 189億 7,574万円

用途を限定することなく、必要に応じて様々なプログラムに活用することができる通常予算への拠出。厳しい状況にありながら、世界の注目を浴びることのない国々の子どもたちへの支援を可能にし、中長期的な支援を支えます。

日本から危機下の国々へ
緊急拠出 20.7% 55億 66万円

絶え間ない紛争や自然災害、感染症の流行、食糧危機など、緊急に支援が必要な深刻な危機に対処するためにご支援いただいた緊急募金からの拠出。

日本から危機下の国々へ
指定拠出 8.0% 21億 2,360万円

水と衛生、教育、HIV/エイズなど特定の活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定のプロジェクトを複数年にわたってご支援いただく指定募金からの拠出。

for every child
すべての子どもたちのために
みなさまから
子どもたちの大きな
ご寄付が
支えとなっています

ユニセフの総収入の内、21%が世界中の民
間のみなさまから寄せられたご寄付でした。
また活動分野、地域ごとの支出 (合計 84 億
5,700 万米ドル) の内訳は下記をご覧ください。



募金活動
p.12-13



広報活動
啓発・アドボカシー活動
p.14



より多くの支援を得るための
募金活動。

子どもたちの問題と
ユニセフの活動を広める
広報活動。

子どもの権利に関する啓発と
課題解決に取り組む
啓発・アドボカシー活動。

通常拠出

支援活動の根幹を支える

▶ 日本から世界へ

189億 7,574万円

世界の子どもたちのためにお預かりした「ユニセフ募金」は、支援の必要性に合わせてあらゆる国、地域、支援内容に活かすことができるユニセフ本部の通常予算に拠出されます。日本ユニセフ協会の通常予算への拠出額は米国政府と並び極めて高く、最も困難な状況にある子どもを最優先で支援するユニセフの取り組みに大きく貢献しています。

通常拠出／通常予算とは

ユニセフの予算は、支援先の国や地域、分野を限定せず、柔軟に活用できる「通常予算」と、緊急・人道支援を含む国や地域、プロジェクトをあらかじめ指定する「その他の予算」に分かれます。多くの方にご参加いただいている毎月定額の募金プログラム「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」を通じたご協力をはじめ、日本の皆

さまからご寄付いただいたユニセフ募金は、このうちの「通常予算」に拠出させていただいています。この「通常拠出」の支えによって、ユニセフは150以上の現地事務所に不可欠な資金を確保でき、世界各地での支援活動を維持することができています。また、人道危機が新たに発生した際、即時に対応する資金としても活用されています。



© UNICEF/UN0856854/Abdou
元気になったラウアリーくん（ニジェール）

通常予算は、ユニセフの活動のすべての分野で生かされます。



ETHIOPIA/NIGER

© UNICEF/UNI404811/Assefa
2週間の入院治療を受け、元気に退院するメディナちゃん（エチオピア）

支援事例 深刻な栄養不良から子どもを救う

長い間、深刻な干ばつが続いているエチオピア北東部。下痢と嘔吐を繰り返しぐったりとしていた生後6カ月のメディナちゃんを連れ、母親のアミナさんが村の保健センターにやってきました。診断の結果、重度の栄養不良に陥っていることがわかったメディナちゃんにはすぐにRUTFと呼ばれる栄養治療食*が与えられ、2週間の入院治療後には元気に退院することができました。

ニジェール第2の都市マラディの保健センター。祖母のサホウラさんに連れられてきた1歳半のラウアリーくんは、口の中がただれ、なにも食べることができない状態でした。立ち上がることさえできないラウアリーくんのように希望を失いかけていたサホウラさんですが、「治療のおかげで、孫は今、立ち上がって私の名前を呼ぶこともできます」と嬉しそうに話します。

ユニセフの推計によれば、世界で約4,500万人の子どもたちが消耗症と呼ばれる重度の栄養不良状態にあり

ます。もともと貧困など厳しい環境に置かれていた子どもたちが近年の気候変動や紛争の影響で、さらに深刻な状態に追いやられています。ユニセフは栄養不良を予防・発見・治療するための活動を世界中で継続しています。

*RUTF = Ready-to-Use Therapeutic Food（すぐに口のできる栄養治療食）の略。粉ミルク・ピーナッツ・バター・植物油・砂糖・ビタミン・ミネラルなどがペースト状になって小袋に入っている栄養治療食。袋から直接食べることができ冷蔵も不要。消化の早いペースト状のため、短時間で体重を増やすことができ、栄養不良の治療に欠かせない支援物資です。



© UNICEF/UN0848568/Assefa
医師から栄養治療食（RUTF）を与えられるメディナちゃん

緊急拠出



© UNICEF/UN1519938/El Baba
上腕計測メジャーで、栄養不良を意味する「赤」が示された2歳の女の子（ガザ地区）

2023年も各地で続く紛争や多発する自然災害、大規模な難民・移民危機、食料危機など、緊急に支援が必要な事態を受けて当協会が呼びかけた緊急募金にたくさんのご協力をいただきました。

1 自然災害緊急募金（トルコ・シリア地震）

2023年2月、トルコ・シリア国境付近で大地震が発生し770万人の子どもたちが被災。すでに13年にわたり紛争が続くシリアでは多くの人が支援を必要としており、給水所の設置や保健・栄養分野の支援、学校再開に

向けたサポートなどを実施。トルコでも、災害時に子どもたちが安心・安全に過ごせる「子どもにやさしい空間」を設置し心のケアを提供したほか、予防接種や医療物資、家庭用衛生キットなどの提供も行いました。



© UNICEF/UN0806136/Karacan
ユニセフの「子どもにやさしい空間」で笑顔を見せる子どもたち（トルコ）

2 ガザ人道危機 緊急募金

2023年10月に武力衝突が激化した中東・パレスチナのガザ地区では、激しい戦闘によって170万人近くの市民が避難を余儀なくされました。この状況を受け、日本ユニセフ協会では「ガザ人道危機 緊急募金」の受付を開始。人々が必要最低限の水や食料さえ手に入らない暮らしを強いられるなか、ユニセフは飲料水や栄養治療食、衛生用品、防寒具などの提供から、医療用テントの設営、避難所の廃棄物処理まで、幼い命を支える広範な支援を続けています。



©UNICEF/UN1539222/ZAGOUT
安全な飲み水を確保するため、順番を待って水の供給を受ける11歳の男子（ガザ地区）



© UNICEF/UNI412797/Preechapanich
地元のPR動画制作を通じ、共同作業と制作・編集スキルを学ぶ子どもたち（タイ）

指定拠出

教育、栄養、水と衛生などの活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定のプロジェクトを複数年にわたってご支援いただく指定募金からの拠出は、世界中で様々なプロジェクトを支えています。

1 デジタルを通じた教育機会の拡大とメンタルヘルス向上

支援企業：ソニーグループ株式会社

コロナ禍で、世界では学齢期の子どもの約30%が遠隔学習にアクセスできていない現状が明らかとなり、心の健康へのサポートも急務となりました。こうした問題に継続的に取り組むべく、ソニーグループ株式会社とユニセフは2023年9月、グローバル・パートナーシップを締結。ユニセフのデジタル学習プログラム「ラーニング・パスポート」の普及のほか、子どもと若者の心に寄り添うメンタルヘルスサービスの強化、拡大を支援しています。



© UNICEF/UN0789246/Parashar
公立学校での心の健康を保つためのアートセラピーの様子（インド）

2 脆弱な国・地域の子どもたちのための気候変動対策支援

支援企業：株式会社 LIXIL

気候変動による自然災害が頻発する世界。ユニセフは「気候危機は子どもの権利の危機」とし、最も責任がないはずの子どもたちが最も大きな犠牲を強いられる現状に警鐘を鳴らしています。長年、水と衛生分野におけるグローバル・パートナーの株式会社 LIXIL は2023年、新たに被災地域への緊急支援と気候変動対策支援を開始。災害に脆弱な国や地域の子どもたちのために、被害を最小化する防災施策の推進や防災教育、気候問題に関する啓発活動などを支援しています。



© UNICEF/UNI486568/Zaidi
大規模な洪水で被災したパキスタンの学校で気候変動と環境について学んだことを発表する生徒

■ プロジェクト指定募金一覧（10万米ドル以上／五十音順）

支援者	国・地域（順不同）	プロジェクト
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ	カンボジア、ミャンマー	水と衛生
伊藤ハム株式会社	東アジア・太平洋地域	教育
株式会社 SL Creations	マダガスカル	教育
FNS チャリティキャンペーン（株式会社フジテレビジョンを含むフジネットワーク系列28局及びBSフジで構成）	パキスタン	水と衛生、子どもの保護等
神奈川県ユニセフ協会	カンボジア	子どもの保護
関西・中四国の生活協同組合	ミャンマー	栄養
クレ・ド・ポー ボーテ	バングラデシュ、キルギス、ニジェール、グローバル	ジェンダー教育
KDDI 株式会社	モンゴル	気候変動事業
コープデリ生活協同組合連合会	コートジボワール	栄養
サラヤ株式会社	ウガンダ	手洗いキャンペーン
認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会	ブータン、バヌアツ、ミャンマー、ラオス	予防接種事業
ソニーグループ株式会社	グローバル事業	デジタルアクセスを通じた教育、メンタルヘルス向上
武田薬品工業株式会社	アンゴラ、ギニア、トーゴ、グローバル事業	保健、イノベーション
東北・九州の生活協同組合	東ティモール	保健・栄養
日本生活協同組合連合会	アンゴラ	教育
株式会社 LIXIL	エチオピア、ケニア、タンザニア、インド、インドネシア、ナイジェリア、グローバル事業	水と衛生、気候変動対策事業
立正佼成会	グローバル事業	宗教とユニセフの連携パートナーシップ事業

募金活動



■ 10 万米ドル以上支援の企業・団体一覧（五十音順）

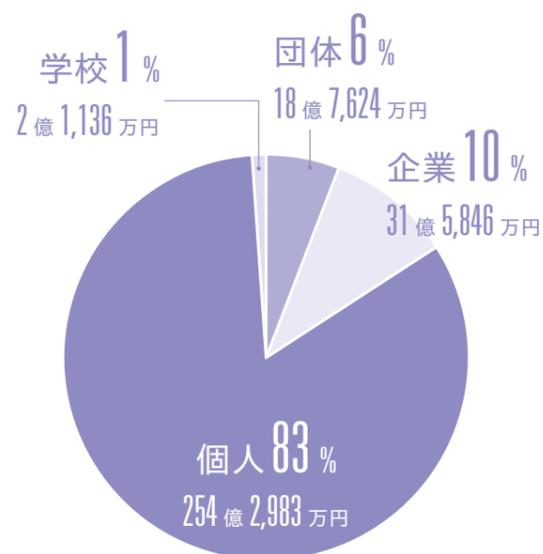
- ▶ イオン株式会社
- ▶ 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ
- ▶ 伊藤ハム株式会社
- ▶ 株式会社 IDOM
- ▶ 公益財団法人 稲盛財団
- ▶ いばらきコープ生活協同組合
- ▶ 株式会社 SL Creations
- ▶ NTTグループ
- ▶ FNSチャリティキャンペーン(株式会社フジテレビジョンを含むフジネットワーク系列28局及びBSフジで構成)
- ▶ エフコープ生活協同組合
- ▶ 大阪いずみ市民生活協同組合
- ▶ クレ・ド・ポー ポーテ
- ▶ コープデリ生活協同組合連合会
- ▶ サラヤ株式会社
- ▶ 株式会社ジャパネットホールディングス
- ▶ 生活協同組合コープあいち
- ▶ 生活協同組合コープぐんま
- ▶ 生活協同組合コープこうべ
- ▶ 生活協同組合コープさっぽろ
- ▶ 生活協同組合コープデリにいがた
- ▶ 生活協同組合コープながの
- ▶ 生活協同組合コープみらい
- ▶ 生活協同組合ひろしま
- ▶ 生活協同組合ユニーコープ
- ▶ 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
- ▶ 認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会
- ▶ ソニーグループ株式会社
- ▶ 武田薬品工業株式会社
- ▶ とちぎコープ生活協同組合
- ▶ 日本共産党
- ▶ 日本生活協同組合連合会
- ▶ 日本生命保険相互会社
- ▶ 日本労働組合総連合会
- ▶ パルシステム生活協同組合連合会
- ▶ 株式会社日立製作所
- ▶ 三井住友カード株式会社
- ▶ 株式会社三菱 UFJ 銀行
- ▶ みやぎ生活協同組合
- ▶ 株式会社ミライト・ワン
- ▶ 株式会社 LIXIL
- ▶ 株式会社りそな銀行
- ▶ 立正佼成会

(2023年1月～12月に寄せられたご寄付) ※掲載許可をいただいた企業・団体のみ

みなさまのお力で

▶ 募金ご協力者内訳

総額 **306億 7,589万円**



一人ひとりのお力で — 個人募金

個人のみなさまからの募金総額は過去最高の 254 億 2,983 万円にのぼり、協会全体の募金額の 82.9% を占めました。このうち、毎月定額の募金プログラム「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」を通じた募金額は 47.3% を占め、ユニセフの活動を支える中核的な募金プログラムになっています。インターネット、テレビ、ダイレクトメール、商業施設・街頭での対面式キャンペーンなどを通じて、同プログラムへの参加を広く呼びかけました。

2月のトルコ・シリア地震、10月のガザ地区での武力衝突拡大時には、いち早く緊急募金の受付を開始し、インターネットやダイレクトメールによる告知、各種媒体への募金チラシの同梱を通じて、多くの皆さまからのご協力が寄せられました。夏には「水」、冬には「予防接種」およびユニセフブルーの入った支援物資を子どもたちに届ける「ブルーギフト募金」をテーマとしたキャ

ンペーンも実施しました。

また、東京・大阪・名古屋での「ユニセフ相続セミナー」や各種媒体を通じた「ユニセフ遺産寄付プログラム」の広報活動を展開。同プログラムを通じた寄付額も過去最高となりました。



◎日本ユニセフ協会ユニセフハウス（東京都港区）で開催された「相続セミナー」。法律の専門家を講師に招き遺産寄付プログラムをご紹介

◎日本ユニセフ協会商業施設で「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」参加者を募る対面式キャンペーン



組織のお力で — 企業・団体のご支援

グローバル・パートナーシップにより、今年もクレ・ド・ポー ポーテ、武田薬品工業株式会社、株式会社 LIXIL から大きなご支援をいただきました。また、新たにソニーグループ株式会社とデジタルを活用した学習機会とメンタルヘルスの向上に取り組むグローバル・パートナーシップを締結。生活協同組合からは 10 億 5,808 万円のご寄付があり、特にトルコ・シリア地震などへの自然災害緊急募金に全国から大きなご支援をいただきました。立正佼成会などの宗教団体からの募金額は 1 億 3,655 万円。認定 NPO 法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会からは、ミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツの予防接種事業の支援に 1 億 1,663 万円をご寄付いただきました。その他、労働組合、経済団体、ボーイスカウト・ガールスカウト、女性団体、社会文化団体、医療法人、任意団体など、多くの団体からご支援をいただきました。

広報活動

世界の子どもの状況とユニセフの活動をより身近に感じ、ご理解いただくため、さまざまな広報活動に取り組んでいます。

報道露出
[新聞・雑誌・TV・WEB]



26,561 件

報道機関向け発信
[プレスリリースなど]



230 本

YouTube
投稿動画



年間総再生数
約 1,300 万回



① G7 サミットでユニセフのメッセージを届けてくれた歌手 AI さんがチャリティーイベント「ラブウォーク」にも参加 (2023 年 4 月) ② ウクライナ危機拡大から 500 日の報道向けイベントで歌手 MISIA さんが力強いメッセージを発信 (2023 年 7 月) ③ ユニセフが訴える「for every child (すべての子どものために)」をテーマにした NHK と非営利団体セサミワークショップとの共同制作番組が放映 (2023 年 6 月) ④ 2022 年にリニューアルした展示施設「ユニセフハウス」が「キッズデザイン協議会会長賞」を受賞 (2023 年 10 月)

①②④ © 日本ユニセフ協会、③のみ © NHK・ユニセフ・Sesame Workshop

啓発・アドボカシー活動

子どもに関する課題への理解を広げ、子どもの権利の実現に向けて、啓発・アドボカシー(政策提言)活動に取り組んでいます。

ユニセフ教室
(講師派遣)を
受けた児童・生徒



39,111 名

子ども向け
SDGs学習サイト
『SDGs CLUB』



年間総閲覧数
約 1,769 万回

中学 3 年生向け
SDGs副教材



全国への配布数
125 万部



① 慶應義塾大学三田祭で活動中の大学生ボランティア組織ユニセフ・キャンパスのメンバーの皆さん (2023 年 11 月) ② ユニセフ事務局長がこども政策担当大臣を表敬訪問し、連携強化に向けた意見交換 (2023 年 12 月) ③ 子どもの権利が守られた教育環境づくりのため、「子どもの権利を大切にできる教育先生のための実践ガイド」を発行 (2023 年 9 月) ④ 安心・安全にスポーツができる環境づくりの大切さを伝える子ども向けサイト「ユニセフ こどスポ」公開 (2023 年 5 月) ⑤ G7 シンポジウム「子どもたちのウェルビーイングをどう高めるか? ~教育現場での子どもの権利の実践を通じて」を開催 (2023 年 5 月)

すべて © 日本ユニセフ協会

地域の活動から

地域に根ざした活動で、ユニセフの輪を広げている協定地域組織。現在は全国 27 カ所で活動中です。協定地域組織では、共に活動するボランティアを随時募集しています。

こんな活動があります

- ▶ 国際協力やユニセフ学習のイベント開催
- ▶ 学校への講師派遣
- ▶ ハンド・イン・ハンド募金活動
- ▶ ラブウォーク (チャリティーウォーキングイベント)
- ▶ 写真パネル展の開催
- ▶ 外国コイン仕分け活動



■ 協定地域組織一覧 (2024 年 4 月現在)

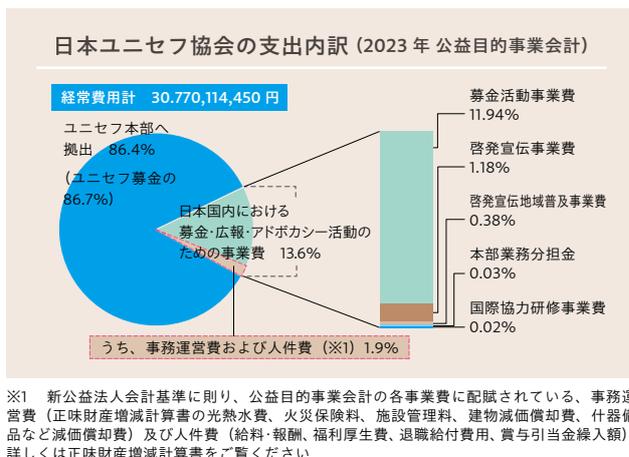
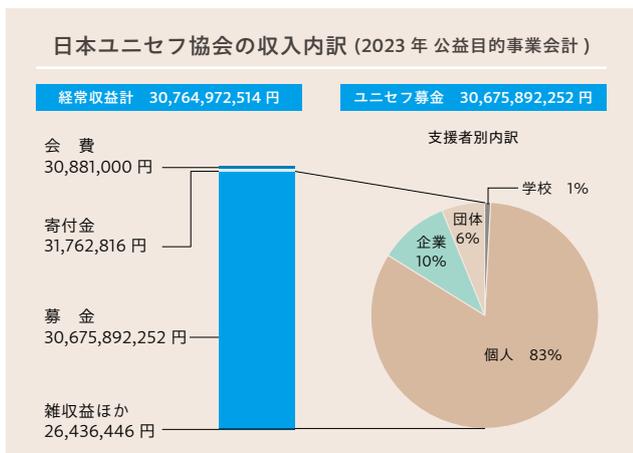
- | | |
|--------------|--------------|
| ① 北海道ユニセフ協会 | ⑮ 兵庫県ユニセフ協会 |
| ② 岩手県ユニセフ協会 | ⑯ 奈良県ユニセフ協会 |
| ③ 宮城県ユニセフ協会 | ⑰ 鳥取県ユニセフ協会 |
| ④ 福島県ユニセフ協会 | ⑱ 岡山ユニセフ協会 |
| ⑤ 茨城県ユニセフ協会 | ⑲ 広島県ユニセフ協会 |
| ⑥ 埼玉県ユニセフ協会 | ⑳ 山口県ユニセフ協会 |
| ⑦ 千葉県ユニセフ協会 | ㉑ 香川県ユニセフ協会 |
| ⑧ 神奈川県ユニセフ協会 | ㉒ 愛媛県ユニセフ協会 |
| ⑨ 石川県ユニセフ協会 | ㉓ 久留米ユニセフ協会 |
| ⑩ 岐阜県ユニセフ協会 | ㉔ 佐賀県ユニセフ協会 |
| ⑪ 愛知県ユニセフ協会 | ㉕ 熊本県ユニセフ協会 |
| ⑫ 三重県ユニセフ協会 | ㉖ 宮崎県ユニセフ協会 |
| ⑬ 京都綾部ユニセフ協会 | ㉗ 鹿児島県ユニセフ協会 |
| ⑭ 大阪ユニセフ協会 | |

各地域組織の詳細はこちらから →



■ 収支報告ハイライト

2023 年度も全国のみなさまから力強いご支援をいただきました。あたたかいご支援に深く感謝申し上げます。財務諸表等はすべて当協会ホームページにてご覧いただけます。www.unicef.or.jp



■ 役員一覧

日本ユニセフ協会の役員は、常勤の専務理事をのぞき、会長以下すべての役員はボランティアとして協力しています。

役職名	氏名	現職等
評議員	渥美伊都子	公益財団法人渥美国際交流財団理事長、鹿島建設 (株) 顧問
	阿部 彩	東京都立大学教授、同 子ども・若者貧困研究センター長
	櫻井 龍子	元最高裁判所判事
	佐藤 禎一	元ユネスコ日本政府代表部大使
	世良喜久子	熊本県ユニセフ協会副会長
	永井 良三	自治医科大学学長、東京大学医学部名誉教授、宮内庁皇室医務主管
	野口 昇	公益社団法人日本ユネスコ協会連盟顧問
会長	高須 幸雄	代表理事、国際連合事務総長特別顧問 (人間の安全保障担当)、前国際連合事務次長、元国連大使
専務理事	早水 研	業務執行理事
理事	大谷美紀子	弁護士、国連子どもの権利委員会委員
	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授、元国連事務次長補
	別所 文雄	公益財団法人小児医学研究振興財団評議員会会長、元日本小児科学会会長
	弓削 昭子	法政大学教授、元 UNDP 駐日代表兼総裁特別顧問
監事	新井ちとせ	日本生活協同組合連合会副会長
	松本 香	公認会計士

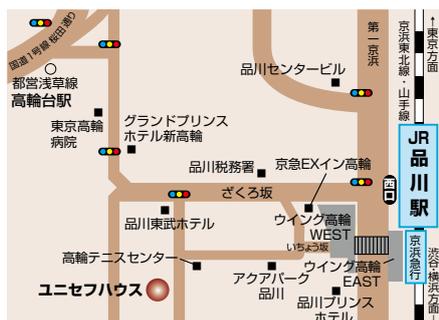
(敬称略、役職別五十音順)

■ ユニセフハウス

JR 品川駅から徒歩 7 分。「世界の子どもと出会う場所」をコンセプトに、動画や写真を活かした様々な体験型の展示を通して、多様な世界の子どもたちと出会い、子どもの権利について感じ、考えていただける展示施設です。ユニセフハウスに、ぜひ一度足をお運びください。



© 日本ユニセフ協会



公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス

電話：03-5789-2011 (代) FAX：03-5789-2032 ホームページ：www.unicef.or.jp

開館：月～金曜日、第 2・第 4 土曜日 10：00～17：00 (祝祭日、当協会創立記念日 6 月 9 日、年末年始を除く)

ガイドツアー：10：00～16：00

お申込み：個人の方 WEB 予約：www.unicefhouse.jp

学校の方 03-5789-2014

団体の方 03-5789-2012

※開館日・時間などは上記と異なる場合があります。最新情報をホームページでご確認ください。



© 日本ユニセフ協会

unicef  | for every child



▶@unicefinjapan



▶@UNICEFinJapan



▶@UNICEFJapanNatCom

表紙：ザンビアの保健センターで母親に抱き上げられる生後6カ月のダベンちゃん

© UNICEF/UNI308039/Schernbrucker

公益財団法人 日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会)

 **0120-88-1052** (平日9:00～17:00)
ホームページ：www.unicef.or.jp

